

國風大觀

第十八輯





Plaza de Armas, Lima, Peru

### 南亞米利加ヘルムの首都 リマ市に於ける闘牛場

西班牙の大探検家セサロに依つて開拓征服せられたるヘルムは、西班牙の花と唱われドンホセとカレメンとの劇化によりて恰人口に膾炙せられた闘牛の技が盛んに行はれる。

闘牛は南歐の若き血たぎる英丈夫が粗暴そのもの、横な野牛の力の前に身を挺して日頃練習せる一劍に身を託しての一騎打である。

春の初頭から夏の給にかけて行はれるこの闘技に國民は息詰る様な接戦と勇士に對する思慕とに熱中して興奮の渦の中に投げ入れられる先中死を豫知する覺らくれた野牛が場内に放たれるや闘士は赤布と一劍を携へて眞正面から向う、一匹の牛に對して一人の闘士、絶對に牛の側面、背面より立向はざる事が規定されて居るので全くの正面衝突である、赤布を振りかざす時は牛は非常に猛りたつので戦は一層の劇烈さを増す、闘士は決死の覚悟で牛に向ひ、沈着果斷、急所の一刀を以て牛を屠る事が最も誇りとされ且物は其の意氣を受し闘技に酔うものであつて單なる面白味を消かす見せ物ではない。

龍虎相争ひ堂々の陣を張つての壯景はげだし天下の壯觀である。

寫眞はヘルムの首都リマ市のプラサダ、アチャコにある、闘牛場、左は戦の初め、右は白熱化する戦の眞最中の光景である。

西班牙眞傳の闘技を受けたこの國の闘牛も極めて勇壯で國民も大いに此を觀望し、これが闘牛季節には二萬を入る場内は何時も立錫の余地もない程の盛況振りである。

禁書寫轉載

外務省 編 版



ソヴェート露西亞シベリヤ農業五ヶ年計畫下  
にある牧牛の概況とホルスタイ種

ソヴェート露西亞五ヶ年計畫下の農業は一九三一年は第三年に相當する而し同計畫四箇年實施の觀點よりすれば其の滿期の前年に當り國民經濟の發展と其の社會主義的再建の成就をなすに足る年度として世界各國より重要視されて居るのである。

一九三〇年の農村基團化の經過は一言以て之をいへば農村の貧、中農大衆のユルホーズへの力強き進出に盡くされ其の間各所に黨紀の粉亂を見、直接の生産組織及事功の達成を閉却して徒に其量的方面にのみ拘泥したる爲之に伴帶害に苦しんだのである。

故に一九三一年はコンホーズ内部の眞の生産組織を結成せしむべき重大な時で此の研討は注目し得る、此處には餘白がないので唯單に畜牛に關する點だけしか述べ得られないのを遺憾とするが其の一端を述べて參考に資したい、一九三一年には畜牛農場、乳製品工場が國家及會社事業として相當見るべき施設が行はれ廣般な牧草花地に向つて機械化の一進場と相持つて自信を興へた様である。

飼育の改良を講じ種牛のホルスイン種に力を注ぎ發育の速かなる食用今種牛の養殖に留意する等協會の努力を續けて居る。

今年特記すべき取組は懸案たる暖牛舎の完備と西伯利亞畜牛の弱點たる防疫治療の二五%擴張であるが、輸出貿易重要な地位を占むる牛酪製造が依然不振であるので鋭意大工場生産合同に努めて居るので今年來には相當期待し得るものがある。露西亞西伯利亞に於ける暖牛舎の最も理想的なもので主としてホルスイン種を飼育して居る。

熱核寫轉載

外務省藏版



### 中央亞米利加墨國ユカタン土人の風俗

中央亞米利加メキシコのユカタン土人は國の南方ユカタン半島の住人でシエラマドリ山脈の流れるアナトク高原地帯にまで及んで居る。昔より獨自の文化を持つ墨國の土人は一般的に南洋、加奈陀等の蠻族と軌を一にして親睦する事は大なる誤りである。製作品の藝術味豊かなる、住居の比較的清潔にして堅牢なる、頭腦の統一なる我々の遠き祖先の持つてゐる以上の遺物の現存せる事實を以ても明かに彼等の優秀な點を知る事は出来る。唯歐羅巴移民の絶へざる侵略を受けて漸次勢力失墜し今日に至つたので白人に對する彼等反感は相當に深く、黃色人種特に日本人に對して親し味と尊敬の念なきへ抱いて居る事は訪れた何人も感ずる處で日本の將來に取つて喜ぶべき状態にある。

此の地の一千五百萬の住民中土人は三割八分に達し彼の四割三分も土人との混血兒で白人は一割九分に過ぎない土人の住居は多くは石造で現今では殆ど文明人に近い住宅を持つて居るものが多い。寫眞はユカタン族の妙罕な處女で一見黃色人種と何等變りのない面影を有し頭髮も目も黒く皮膚の稍薄紅色なのが異點と云へる骨格は男子女子共堂々たるもので東洋人も及ばない。

衣服は男女を通じて正裝、常裝、労働服の三種に分れ更紗織の布に特有の刺繍を施し、刺の合目には金屬製又は布片の紐を付けるものが多い、労働服は至極簡単な粗衣をまさうユカタン族も土人の通隔性たる信仰に厚く、迷信強く排他的であるか近時次第に西班牙人の感化を受けて其の缺點が矯正せられつゝあるのを認める是將來土人及混血兒の教育が發達するに従つて聯邦政治統一の期と相待つて現在の混血たる政情をよりよくし得るものと觀察される。

禁煙寫轉載

外務省 編 版



### 東印度の首都バタビヤ

バタビヤは蘭領東印度諸島の首府で人口僅か十四萬の小都邑ながら市街は整然として完備せる文明的形態を成している、市中最も股賑を極める場所は下町方面で此處には支那人、土人等の商店が軒を連ね山の手とも云ふべき上町には諸官衙、學校ホテル、會社等の開市に於ける重要な建物が整を並べている此處は日本領事館の所在地でもある。此外著名なものとして、馬來半島の風俗を一躍めにした觀のある博物館があつて中には稀て露骨な陳品が所蔵されている。

其他には世界第一の稱あるパイテニソルフクが此近郊にある。自然の思慕がある上に規模の廣大を誇るだけに世界各國から研究に来る植物學者の数は夥しいもので其門前には植物實驗室、植物博物館及び農務省がある。

バタビヤ在留の日本人は僅に數十人にて從つて日本人經營の商店は一軒あるにすぎない此一軒の商店が旅館と雜貨商を兼業している。

古來バタビヤは世界公園の稱ある風光明媚の土地柄だけに市中から近郊にかけて見るべきものが甚だ多い。

ウオタロー大戦の遺跡たるウオタロー平原を筆頭に土人宗教の神像等を殘したアレルア、アルベルの廢墟パラムパナンと稱する數百の廢寺の舊蹟等枚舉に遑ない。

寫眞は街頭から望んだパラムパナンク廢寺の舊跡で前面の建物は日本に於ける山門とも稱すべき同寺の入口である。



### 臺灣の生蕃アヌ族

臺灣生蕃の種族はマイヤル族、アモン族、ツオウ族、アミ族、ヤミ族、サイセツト族の七種屬に大別されて居る、種族の蕃社には數社に一人又は一社に一人の頭目を載き時に二三人の頭目の居る蕃社もある、血族團體の族長を推薦し、或は社中の才能と勇氣あるものを選舉して決定する。

家屋は種族により多小の相違はあるが極めて幼稚な建方で柱を土中深く入れ屋内は全部土間で四隅に寢床があり中央に爐を作る、屋根は草茅、樹皮、スレートで葺き、壁はなく木材、竹等で作られる、五坪及五十坪の廣さで側に家畜小屋附けて居るものもある。

部族の集會所は相當の廣さがあつて床を設け社内で最も神聖視され婦女子の出入を許さない其の外高さ一丈乃至一丈五尺物見櫓を作つて外敷に備へて居る。

衣服は胸當、腰巻、脚絆の類を付け多くは裸體であるが彼等も時の進むと共に黒糖事淺黄の綿布を纏うものが少なくない赤、青、紫、黄、等の色彩の濃ひものを好み獸皮褌いで褌衣又は防寒具に用いる種屬もあるマイヤル族、サイセツト族、マイロン族は青女共成年間に達すると鬚青をするマイヤル族の如きは一度人間の首を取らないと鬚青の名譽を興へられなかつたが今日では野獸の首を代用する様になつた、各種屬共耳朶に穴を開けて色々の裝飾品を挿入する。

神を信じ靈魂の不滅を信じ神に祈つて先祖の靈を祭るは各種屬とも一様である人の生死や全ての運命も皆神の掌る所と信じて居る太陽を崇拜する事が非常に厚い種屬中の情誼は極めて強く男女間の徳義をよく守る事は文明人と稱する白人の現在の風調を見るものに取つては尊敬するに價する家族は家長制度で絶對の支配權を持つて居る。

寫眞はアモン族の一隊でこの種屬は數組の一家が同居するものがあり男系の長子を世嗣とする習慣である寫眞で見ると割合に樸素な様子が見へて親しみの持てそうな氣がする。

禁復寫轉載

外務省 蔵版



### 獨逸劇作家奇人フランク・ウェテキンド

一方には愚劣醜態なる詩人として獨逸劇壇を退歩せしめた劇作家として盛んに悲劇され乍ら亦一方には天才と呼ばれ獨逸劇壇の希望さへ讃美されて居るのはフランク・ウェテキンドである。

彼の作風は「地獄」に於て、最もよく代表せられてゐるが、彼が此篇に於て描いてゐるのは其序曲にいつてゐる通り「生粋の歌類詩人に野歌である肉と肉との戦である」パンドラの位に於ても同じことが云へるが彼位露骨に肉慾を描いた物はない彼は最も大膽な肉慾記録者であると共に又その讚美者である。彼は此の醜怪な人生に對しても之を厭ふものではない彼は飽死も生を肯定する。

彼の名を高からしめたものは「春の服麗」と云う一脚本で少年少女が如何にして大なる自然力の最初の活動を感ずるかを描いたものであるが此處に彼は道學者に對して新切な諷刺を浴せかけて居る其の他小説詩等の作も多いが何れも肉慾を描いたもので其等の凡てを通して見られる彼の特色は一種の諷刺と嘲笑である或は批評家は彼を最上の悲喜劇家であるといつたまた社會反語の權化と呼ばれ獨逸現代劇のメフィストフェレスと呼ばれて居る兎に角異色ある作家で近代精神の生んだ一種の畸形兒である事は否めない。

寫眞は彼の居室に納まつたフランク・ウェテキンドである。

禁書寫轉載

國風會藏版



シメツァンカヌン - LAUGLA

### 湖水の都ヘルシングホルス

芬蘭は面積僅に十四萬五千六百八十六方哩の狭隘な一小國にすぎないが其國土に點在する湖水の数は大小實に一千有餘の多きに達し、芬蘭語でヌオキと稱するのは蓋し如上の意味を意圖なく現したもので、以つて此地方が如何に湖水に富んでいるかが窺ひ知れる。

首府ヘルシングホルスは湖面に浮々たる芬蘭灣を望み、背後に多幾の湖水を控へた其中間に介在する政治の中心地で、總督府、參議院、第二十二軍團及び歴山大學、エムヘル、ニコライ教會、ヘルグホルム教會等同地重要な建物皆概れ此處に集つてゐる。

一九〇〇年以來續々として建築せられた高壯な建物は新様式の粹を集めた近世的で外觀の美は歐羅巴の都市と云ふよりも寧ろ歐米都市の趣きがある。

市中最も繁華な市場の東北方の一角には三層樓の優美な王宮が聳立しその近くには歴山記念碑がある。

一八三三年時の皇后アレキサンドラ、オドロクナが當市訪問の記念に建てられたもので綠葉豊かな菩提樹の並木に併行して更に西に進めば足は已から高眞に示す湖畔に到着する。

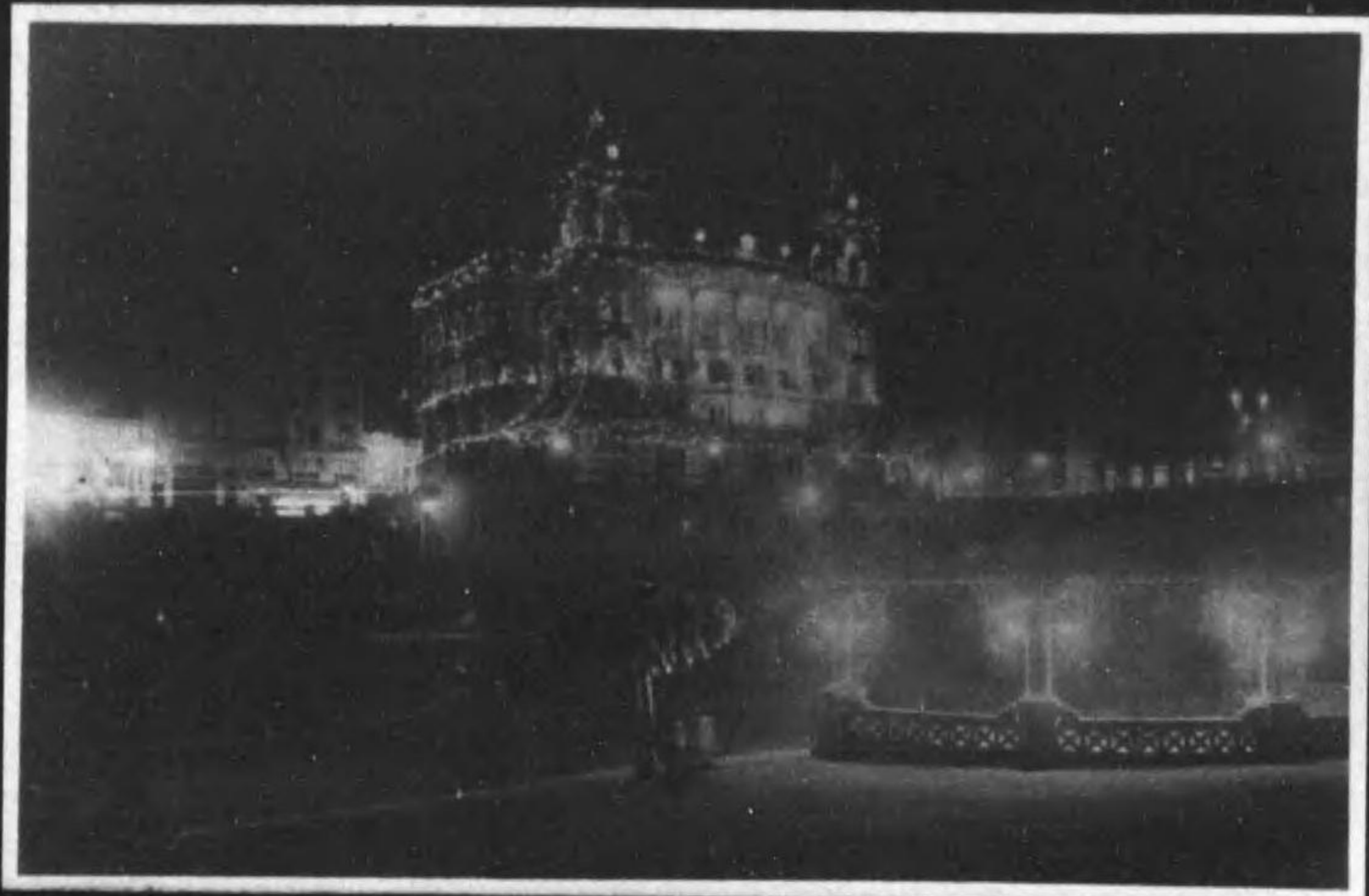
自然の雅に人工の美を加味された幽雅典雅な湖畔は静寂と茂る樹林に周圍を圍まれた塵外の別天地で處々に配置された小橋石燈籠、阿風等の雅味は湖面をゆるやかにするボートの影と相俟つて錦上更に花を添へる一幅の繪畫である。

芬蘭中央の詩人ルネベルグが愛好惜くおたわすそむるに達達せし湖畔の風光は昔日に少しの變りはないが惜し哉今や其人は程近き墓下に安らかに眠つて只徒らに都人士の戀ひの場所とされている。

禁植寫轉載

外務省 蔵版





南米ブラジル・リオデジアーネイロ市に於ける  
自動車倶楽部の夜景

豊富なる天産物と擴大なる面積とを以て唯人力を持つ南米ブラジルに於て大西洋岸にある最大の都市をリオデジアーネイロとす、人口は百萬に達せんとし言辭に盡し得ざる世界三景に數へらる景色を有する此の海港都市は、農産、畜産、金、金剛石等無限の産物を吞吐して商業上にも繁盛を極め、將來益々發展せんとする有望な土地である。

リウデジアーネイロを距る五千三百三十五哩、鐵路サンパウロ、海路サントスのアラカチ二大都市に通じ、交通上にも極要の地を占め、アントニオサンタ、テレザ、聖ペント、コンセイカなどの山で三方を圍まれて居る、廣き三哩四方に達し、幾多の大小島の浮んだる海灣を築へ、景色眞に絶倫、壯大堡壘四近の山々からの眺望は又一段の視野に富み全く申分がない。

市街は道路廣く建造物も整頓して新都市の面目遺憾なく備り、熱帯の樹林はすがすがしい街路樹を形成して居る。

諸官廳のあるアヴェニダ、イオ、フランコ街、海岸遊歩場のあるアヴェニダ、ペーワ、マイル、往古の土城として夏季登坂に有名なるハトリボリス公園等是非一見すべき處である、我が國の公使館も此處にあり日本人植民に大に努力しつつある。

寫眞當市の目披のストリートに面して屹立せる自動車倶楽部の建物で夜の美觀は説明するまでもなく一大浮夜城の狀景を示寫眞に依つて明である。

禁復寫轉載

外務省 蔵版



南亞米利加ペルーの首都

リマ市に於けるシモン・ボリヴァール將軍の像

ペルーは南米の四方に當り、北はエクアドル、東はブラジル、ボリビア西は大平洋である、面積は我が國の二倍半十一萬七千方里、人口は僅に三百五十餘萬に過ぎない住民はインデアノ最も多くメスチソ、白人が此に次ぐ國人インカは夙に文明になつて産業も盛んに古くからココ、キナを栽培し、金銀を採取したのであつたが西班牙人の移住するに及んで漸次勢力を失ひ、ピザロに依つて全く征服せられた。ペルーは晩近に到つて外國移民を誘致し、殖産興業に力を盡したので漸く國力發展の曙光を認むるやうになつた。アンデス山脈を中心とする一帯は英熱無雨の荒野で問題にならないが大平洋岸アマゾン河域は極めて有望にして貴金屬、熱帯産植物、野獸の生産物は活目に價する。

リマ市は大西洋斜面の中央海、抜百七十五米突の上に立ち、ペルーの首都にして商業の中心地である、一五三五年大探検家ピザロ將軍の建設する所で一五五一年の創設にかゝる新大陸最古の大學がある。市街は純然たる西班牙風で人口は十五萬餘アンデスを望み海洋は遠く廣く展開して頗る雅なる地にしてピザロの墓のあるカセドラル、西班牙風の古き建築コロソ遊園等を見るべき價値が多い。

カリアオ市から發してリマ市を過ぎ延々二百七哩の鐵道は世界最高のもので其の布設たるや實に大自然を征服した機械化學の勝利を證るものである。

寫眞はリマ市、パルケ、インキンシオン内にある當國創立に絶大の寄與なせるシモンボリヴァール將軍の像にして等身一倍半彫馬に鞍を擧げて居る勇姿である。

パルケインキンシオンは理想的な遊歩場で熱帯植物は繁茂し建物は典雅で心氣の爽かなるを覺へる。

禁復寫轉載

外務省 謹啟



#### 英領マルタ島の奇勝廻旋道路

英領マルタ島に就いては既に詳述せるを以て唯写真の奇勝廻旋道路のみにつき説明せん。

この廻旋道路は天然の景勝地を利用して設けられた道路で兩側は代赭色をした一種の岩石に圍まれ地質も宛ら煉瓦を砕いた様な色を呈して居る、其の間を縫うて一條の道をたどりつゝ登山する仕組になり兩岸の奇岩景色を見物せしむるのである、此處をマウラント、ルツタアウトと稱しマルタ島を訪うものをして一度は見物する價值がある道路には常盤木が噴林され高地に向うに従つて涼味を増すので互岩に圍れた小島を見下しつゝ廻るのはアメリカの誇りたるセミョテ溪谷とは又一種異つた気分が湧いて壯快味を覚へる唯道路が餘りに規則正しく旋廻して居るので多少の平凡化して居るのは止むを得ないがアスファルトを奇麗に敷つて理想的道路にした事は其の大きな設備に驚かされる伊太利に因した海岸から山を越へて平地に出する間の種々の麗観の變化は申分なく軍港としてのマルタを知るものに取つて一寸意外とするに足る。

終

